



ローカル不揮発性ストレージへのロギング

ローカル不揮発性ストレージへのロギング機能では、システムロギングメッセージを Advanced Technology Attachment フラッシュディスクに保存できます。デバイスが再起動しても、ブートフラッシュまたはハードディスクに保存されたメッセージは消去されません。

- [ローカル不揮発性ストレージへのロギングの前提条件](#) (1 ページ)
- [ローカル不揮発性ストレージへのロギングの制約事項](#) (1 ページ)
- [ローカル不揮発性ストレージへのロギングに関する情報](#) (2 ページ)
- [ローカル不揮発性ストレージへのロギングの設定方法](#) (2 ページ)
- [ローカル不揮発性ストレージへのロギングの設定例](#) (4 ページ)
- [その他の参考資料](#) (5 ページ)
- [ローカル不揮発性ストレージへのロギングの機能情報](#) (6 ページ)

ローカル不揮発性ストレージへのロギングの前提条件

logging buffered コマンドをイネーブルにする

logging persistent コマンドを使用して、ローカル不揮発性ストレージへのロギング機能をイネーブルにする前に、**logging buffered** コマンドを使用して、内部バッファへのメッセージのロギングをイネーブルにする必要があります。詳細については、「ブートフラッシュまたはハードディスクへのロギングメッセージの書き込み」セクションを参照してください。

ローカル不揮発性ストレージへのロギングの制約事項

使用できるブートフラッシュまたはハードディスクの容量によって、保存されるログファイルのサイズと数が制限される

システムロギングメッセージに割り当てられるブートフラッシュまたはハードディスクの容量によって、保存できるロギングファイルの数が制限されます。割り当てしきい値を超えると、ディレクトリ内の最も古いログファイルが削除され、新しいシステムロギングメッセージ用の容量を用意します。システムロギングメッセージを恒久的に保存するには、外部デバ

イスにアーカイブする必要があります。詳細については、「外部ディスクへのロギングメッセージのコピー」セクションを参照してください。



(注) ローカル不揮発性ストレージへのロギングは、最大2GBの記憶域を使用する場合があります。

ローカル不揮発性ストレージへのロギングに関する情報

システム ロギング メッセージ

システム ロギング メッセージには、デバイスのアプリケーションプログラミング インターフェイス (API) によって生成されたエラーおよびデバッグメッセージが含まれます。一般的に、ロギングメッセージはデバイスのメモリ バッファに保存され、バッファが満杯になると古いメッセージが新しいメッセージで上書きされます。デバイスが再起動すると、すべてのロギングメッセージがメモリ バッファから消去されます。

ローカル不揮発性ストレージへのロギングの設定方法

ブートフラッシュまたはハードディスクへのロギングメッセージの書き込み

ローカル不揮発性ストレージへのロギング機能をイネーブルにし、ブートフラッシュまたはハードディスクにロギングメッセージを書き込むには、次の作業を実行します。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **logging buffered** [*buffer-size* | *severity-level*]
4. **logging persistent** [*url* *harddisk:/directory*] [*size filesystem-size*] [*filesize logging-file-size*]

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例 : Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します (要求された場合)。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	configure terminal 例 : Device# configure terminal	グローバルコンフィギュレーションモードをイネーブルにします。
ステップ 3	logging buffered [<i>buffer-size</i> <i>severity-level</i>] 例 : Device(config)# logging buffered	ローカルバッファへのシステムメッセージロギングをイネーブルにし、バッファにロギングするメッセージをシビラティ（重大度）に基づいて制限します。 <ul style="list-style-type: none"> • オプションの <i>buffer-size</i> の引数は、バッファのサイズを指定します。指定できる値の範囲は 4096 ~ 4294967295 です。デフォルトのサイズは、プラットフォームによって異なります。 • オプションの <i>severity-level</i> 引数は、バッファへのメッセージのロギングを、指定されたシビラティ（重大度）またはそれ以上のレベルのメッセージに制限します。
ステップ 4	logging persistent [<i>url</i> <i>harddisk:/directory</i>] [<i>size</i> <i>filesystem-size</i>] [<i>filesize</i> <i>logging-file-size</i>] 例 : Device(config)# logging persistent url harddisk:/syslog size 134217728 filesize 16384 (注) デフォルト値は次のとおりです。url: bootflash:/syslog filesystem-size: 10% of total disk space logging-file-size: 262144	メモリ バッファ内のロギングメッセージを、デバイスのブートフラッシュまたはハードディスク上の指定のディレクトリに書き込みます。 <ul style="list-style-type: none"> • ロギングメッセージをブートフラッシュまたはハードディスク上のファイルに書き込む前に、シスコソフトウェアは、十分なディスク領域があるかどうかをチェックします。十分なディスクスペースがない場合、ロギングメッセージの最も古いファイル（タイムスタンプによる）が削除され、現在のファイルが保存されます。 • ログファイルのファイル名フォーマットは <code>log_MM:DD:YYYY::hh:mm:ss</code> です（例：<code>log_11:26:2012::01:01:41</code>）。 (注) この機能は、そのファイル名の形式（秒レベルまでのタイムスタンプサフィックスが含まれている）により、1秒あたり1つのログファイルだけをサポートします。

	コマンドまたはアクション	目的
		(注) このコマンドのデフォルトは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • url: bootflash:/syslog Filesystem-size: 10% of total disk space. Logging-file-size: 262144

外部ディスクへのロギングメッセージのコピー

ロギングメッセージを、ブートフラッシュまたはハードディスクから外部ディスクにコピーするには、次の作業を実行します。

手順の概要

1. **enable**
2. **copy source-url destination-url**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	copy source-url destination-url 例： Device# copy harddisk:/syslog ftp://myuser/mypass@192.168.1.129/syslog	ブートフラッシュまたはハードディスク上の指定のファイルまたはディレクトリを、FTP 経由で指定の URL にコピーします。

ローカル不揮発性ストレージへのロギングの設定例

例：ブートフラッシュまたはハードディスクへのロギングメッセージの書き込み

次に、最大 134217728 バイト（128 MB）のロギングメッセージをディスク 0 の syslog ディレクトリに書き込み、16384 バイトのファイルサイズを指定する例を示します。

```
Device(config)# logging buffered
Device(config)# logging persistent url harddisk:/syslog size 134217728 filesize 16384
```

例：外部ディスクへのロギングメッセージのコピー

次に、ロギングメッセージをデバイスのブートフラッシュまたはハードディスクから外部ディスクにコピーする例を示します。

```
Device# copy harddisk:/syslog ftp://myuser/mypass@192.168.1.129/syslog
```

その他の参考資料

関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
copy コマンド	Cisco IOS Configuration Fundamentals Command Reference
ネットワーク管理コマンド (logging コマンドを含む) : コマンド構文の詳細、デフォルト設定、コマンドモード、コマンド履歴、使用上のガイドライン、および例	『 Cisco IOS Network Management Command Reference 』

MIB

MIB	MIB のリンク
<ul style="list-style-type: none"> この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。 	選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE リリース、およびフィーチャセットの MIB を検索してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 http://www.cisco.com/go/mibs

シスコのテクニカルサポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html

ローカル不揮発性ストレージへのロギングの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェアリリーストレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、www.cisco.com/go/cfn に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 1: ローカル不揮発性ストレージへのロギングの機能情報

機能名	リリース	機能情報
ローカル不揮発性ストレージへのロギング	Cisco IOS XE Release 2.1	ローカル不揮発性ストレージへのロギング機能では、システム ロギング メッセージを Advanced Technology Attachment フラッシュディスクに保存できます。デバイスが再起動しても、ブートフラッシュまたはハードディスクに保存されたメッセージは消去されません。 次のコマンドが導入または変更されました。 logging persistent

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。